

学位論文審査基準

法学研究科(修士課程)

論題につき、先行研究を踏まえつつ、論文が適切に構成されるとともに、叙述が論理的に展開されていること

法学研究科(博士後期課程)

修士課程論文審査基準に加えて、新たな知見の有無等、学界に貢献するものであること

経営学研究科(修士課程)

①論文テーマの明確化

テーマの設定について、研究の意義および必要性が明確に述べられていること

②研究方法の妥当性

研究課題にふさわしい研究方法および分析が用いられていること

③先行研究との関連性

先行研究を理解したうえで、当該分野の研究動向の中に研究課題・成果を位置づけていること

④論旨の一貫性

研究課題の設定、分析、結果、考察の過程において、論理展開が一貫していること

⑤構成・表現・表記法の適切性

学術論文として体系的に構成されており、引用・参照文献の提示など、適切な表現・表記法によって記述されていること

⑥学術的・社会的な貢献

学術的な意義や重要性があり、社会的要請にも応える可能性をもつものであること

経営学研究科(博士後期課程)

- ①研究課題設定の明確化
明確な問題意識に基づき、研究の意義および必要性が的確に述べられていること
- ②研究方法の妥当性
研究課題にふさわしい研究方法および分析が用いられていること
- ③先行研究との関連性
先行研究を理解したうえで、当該分野の研究動向の中に研究課題・成果を位置づけていること
- ④論旨の一貫性
研究課題の設定、分析、結果、考察の過程において、論理展開が一貫していること
- ⑤構成・表現・表記法の適切性
学術論文として体系的に構成されており、引用・参照文献の提示など、適切な表現・表記法によって記述されていること
- ⑥学術的・社会的な貢献
学術的な独創性や重要性があり、学術の発展や社会的要請に貢献するものであること

経済学研究科(修士課程)

- ①研究課題設定の明確性
明確な問題意識に基づき、研究の学問的意義及び必要性が明瞭に述べられている。
- ②研究方法の妥当性
研究課題、研究対象にふさわしい学術上の研究方法及び分析方法が用いられている。
- ③先行研究との関連性
先行研究を理解したうえで、当該分野の研究動向の中に自らの研究成果を位置づけている。
- ④独創性・有用性
学術的な独創性や有用性がある。
- ⑤論旨の一貫性
研究目的、分析、結果、考察の過程において、論旨が一貫している。
- ⑥構成、表現、表記法の適切性
学術論文として体系的に構成されており、適切な表現・表記法によって記述されている。

経済学研究科(博士後期課程)

- ①研究課題設定の明確性
明確な問題意識に基づき、研究の学問的意義及び必要性が明瞭に述べられている。
- ②研究方法の妥当性
研究課題、研究対象にふさわしい学術上の研究方法及び分析方法が用いられている。
- ③先行研究との関連性
先行研究を理解したうえで、当該分野の研究動向の中に自らの研究成果を位置づけている。
- ④独創性・有用性
学術的な独創性や有用性がある。
- ⑤論旨の一貫性
研究目的、分析、結果、考察の過程において、論旨が一貫している。
- ⑥構成、表現、表記法の適切性
学術論文として体系的に構成されており、適切な表現・表記法によって記述されている。
公開する学術論文としてのふさわしい体裁(引用、参考文献の提示など)が整っている。
- ⑦学術的・社会的な貢献
新たな知見を含み、学術の発展や社会的要請に貢献するものである。

理工学研究科(修士課程、博士前期課程)

①理工学研究科学位授与方針(ディプロマポリシー)との適合性

理工学研究科博士前期課程の学位授与方針(ディプロマポリシー)を満足していること。

②主体性

主体的に取り組んだ研究の成果であること。

③専門性

当該分野における専門知識が用いられた内容であり、学術的意義が明確であること。

④先行研究調査

文献資料などによる先行研究の調査が行われており、研究の位置づけが明示されていること。

⑤新規性または独創性

関連分野における新しい知見をもたらす内容であるか、または、当該分野の研究に貢献できる独自の考察を含んだ内容であること。

⑥明確性と論理性

論文題目が明確で適切なものとなっており、背景、目的も明確に記述されていること。また、数式や図表を適切に用いることにより、結果を導く過程が明瞭になっており、議論の展開に論理性があること。

⑦信頼性と完成度

十分な裏付けの下に結論を導いて高い信頼性を持ち、研究期間に相応しい完成度を持った有意義な内容であること。また、各専攻で定める学位授与基準がある場合は、それを満たしていること。

⑧質疑に対する適切性

論文審査公聴会での質疑あるいは主査・副査からの問い合わせに、論理的かつ明瞭に受け答えがなされていること。

理工学研究科(博士後期課程)

①理工学研究科学位授与方針(ディプロマポリシー)との適合性

理工学研究科博士後期課程の学位授与方針(ディプロマポリシー)を満足していること。

②主体性

主体的に取り組んだ研究の成果であること。

③専門性

当該分野における高度な専門知識が用いられた内容であり、学術的意義を長く保つことのできるものであること。

④先行研究調査

文献資料などによる先行研究の調査が十分に行われており、それを適切に引用して、研究の位置づけが明示されていること。

⑤新規性または独創性

関連分野における新しい知見をもたらす内容であるか、または、当該分野の研究に大きく貢献できる独自の考察を含んだ内容であること。

⑥明確性と論理性

論文題目が明確で適切なものとなっており、背景、目的も具体的に記述されていること。また、数式や図表を適切に用いることにより、研究開始からの手順や結果を導く過程が明瞭になっており、議論の展開に論理性があること。

⑦信頼性と完成度

十分な裏付けの下に結論を導いて高い信頼性を持ち、研究期間に相応しい完成度を持った有意義な内容であること。また、関連学会への学術論文掲載等により、各専攻で定める学位授与基準を満たすことによって、十分な外部評価を受けた内容となっていること。

⑧質疑に対する適切性

論文査読で生じた主査・副査からの疑問点や論文審査公聴会での質疑に、論理的かつ明瞭に受け答えがなされていること。

農学研究科(修士課程)

①学術的・社会的な貢献

学術的な独創性や重要性があり、社会的要請にも応える可能性をもつものであること

②論文テーマの明確性

テーマの設定について、研究の学問的意義及び必要性が明確に述べられていること

③先行研究との関連性

先行研究を理解した上で、当該分野の研究動向の中に研究成果を位置づけていること
また、新規の内容を含み、当該研究分野において意義のあること

④研究方法の妥当性

研究課題、研究対象にふさわしい学術上の研究方法が用いられていること

⑤論旨の一貫性

研究目的、方法、結果、考察、結論の過程において、論旨が一貫していること

⑥構成・表現・表記法の適切性

学術論文として体系的に構成されており、適切な表現・表記法によって記述されていること

⑦研究者倫理の遵守

大学の定める研究倫理および生命倫理の規程(人を対象とする研究に関する倫理指針、動物実験取扱要項、組換えDNA実験規程)に沿っていること

データのねつ造や改ざん、文書の盗用などが行われていないこと

引用・参考文献が適切に引用されていること

農学研究科(博士後期課程)

①学術的・社会的な貢献

独創性や有用性があり、社会的要請に応え、学術の発展に貢献するものであること

②論文課題設定の明確性

明確な問題意識に基づき、研究の意義及び必要性が的確に述べられていること

③先行研究との関連性

先行研究を理解した上で、当該分野の研究動向の中に研究成果を位置づけていること

また、新規の内容を多く含み、当該研究分野において大きな意義のあること

④研究方法の妥当性

研究課題、研究対象にふさわしい適切な研究方法が用いられていること

⑤論旨の一貫性

研究目的、方法、結果、考察の過程において、論旨が一貫しており、論理的に明確な結論が導かれていること

⑥構成・表現・表記法の適切性

学術論文として体系的に構成されており、適切な表現・表記法によって記述されていること

公開する論文としてふさわしい体裁が整っていること

⑦研究者倫理の遵守

大学の定める研究倫理および生命倫理の規程(人を対象とする研究に関する倫理指針、動物実験取扱要項、組換えDNA実験規程)に沿っていること

データのねつ造や改ざん、文書の盗用などが行われていないこと

引用・参考文献が適切に引用されていること

薬学研究科(博士課程)

提出された学位論文は、審査委員会のある学術誌に掲載されたか、若しくは掲載を受理された報文1報以上をもって作成されたものとし、その学位論文の審査は、以下の観点(基準)に基づいて行います。

1. 研究テーマの適切性

研究目的が明確で、学術的および社会的な意義を有していること。

2. 先行研究との関連性

先行研究の動向を調査したうえで、研究テーマの位置づけを明示していること。

3. 研究計画と研究方法の妥当性

研究テーマの適切性を十分に理解し、研究計画ならびに研究方法を立案していること。

4. 研究結果の論理的解釈と論旨の一貫性

一貫性のある合理的論述が展開され、研究テーマに対応した結論が提示されていること。

5. 学術的・社会的な貢献

当該研究領域の発展への貢献が期待されること。

6. 倫理的配慮

研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、人権の保護及び法令等の遵守への対応が適正になされていること。

7. 論文としての完成度

論文全体が論理的で明解な文章で記述されており、表紙・概要・目次・章立て・図表・引用・参考文献等、論文としての体裁が整っていること。また参考文献の引用が適切になされていること。

都市情報学研究科(修士課程)

年1回の修士学位論文中間発表会又は修士論文発表会での発表を義務付ける。

審査には、修士論文審査発表会時の質疑応答、および審査会における研究課題試験の実施を含む。学位(修士)論文の審査にあたっては、都市情報学研究科の学位授与方針(ディプロマポリシー)に基づき、以下の項目について総合的に評価する。

1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果であること
2. 論文(研究テーマ)の問題設定が明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すること
3. 論文の新規性又は独創性が含まれていること
4. 先行研究調査や事実調査が適切であり、研究の位置づけを明示していること
5. 研究の方法が目的に沿ったものであり、明確かつ具体的に記述されていること
6. 研究目的、分析、結果、考察の過程において、論旨が一貫していること
7. 学術論文としての体系的な構成、語法、文章表現、文献の引用等が適切になされていること
8. 論文内容の発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解におこなわれたこと
9. 学術研究が従うべき規範と研究倫理を守っていること

都市情報学研究科(博士後期課程)

年1回の博士後期課程学位論文中間発表会又は博士後期課程学位論文公聴会での発表を義務付ける。

学位申請論文の内容に関連し、「審査付き論文3件以上」を発表もしくは発表決定であること。ただし、うち2件は『都市情報学研究』掲載論文等、もしくはアブストラクト審査を経た国際的な学会・会議における英文抄録を含めてもよいものとする。あるいは、審査委員会でそれと同等の業績と判断できること。主たる審査対象業績は、原則として学位申請者が第一著者であるものとする。審査には、学位論文公聴会時の質疑応答、および審査会における研究課題試験の実施を含む。学位(博士)論文の審査にあたっては、都市情報学研究科の学位授与方針(ディプロマポリシー)に基づき、以下の項目について総合的に評価する。

1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果であること
2. 論文(研究テーマ)の問題設定が当該分野の学問的蓄積を踏まえて明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すること
3. 論文の新規性又は独創性が明示され、当該分野の学問の発展に貢献できる内容を含むこと
4. 先行研究調査や事実調査が適切であり、研究の学術的あるいは社会的な位置づけを明示していること
5. 研究の方法が目的に沿ったものであり、明確かつ具体的に記述されていること
6. 研究目的、分析、結果、考察の過程において、論旨が一貫していること
7. 学術論文としての体系的な構成、語法、文章表現、文献の引用等が適切になされており、公開する論文としての体裁が整っていること
8. 論文内容の発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解におこなわれたこと
9. 学術研究が従うべき規範と研究倫理を守っていること

人間学研究科(修士課程)

①論文テーマの明確性

テーマの設定について、研究の背景、枠組み、学問的意義及び必要性が明確に述べられていること

②研究方法の妥当性

人間学の精深な学識を踏まえて、研究課題、研究対象にふさわしい学術上、倫理上の研究方法及び客観的データや史資料を踏まえた分析が用いられていること

③先行研究との関連性

先行研究を理解し、立論したうえで、当該分野の研究動向の中に研究成果が位置づけられていること

④論旨の一貫性

論文として体系的に構成されており、研究目的、分析、結果、考察の過程において論拠が示され、論旨が明快で一貫していること

⑤学術的・社会的な貢献

学術的な独創性、重要性があり、人間学を展開する新たな視点、論点、知見を提示し、社会的要請にも応える可能性を持つものであること

⑥論文の体裁

誤字、脱字などのミスがなく、引用、注、参考文献などの形式が一貫し、体裁が整えられていること

⑦表現・書記法の適切性

論文が文法的・語法的に正しく、適切な表現と書記法によって記述されていること

総合学術研究科(博士前期課程)

修士学位論文の審査においては、ディプロマポリシーに基づき、以下の要件について総合的に評価する。

1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果であること。
2. 論文の内容が、新規性または独創性を有していること。
3. 論文の構成・内容が以下の項目を満たすこと。
 - (1) 論文題目が研究内容を端的に表すものであること。
 - (2) 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
 - (3) 研究方法が目的に沿ったものであること。
 - (4) 考察が結果に基づいて論理的に導き出されていること。
 - (5) 結論が研究目的に対応したものであること。
 - (6) 文献が当該分野の先行研究を引用・参照するものであること。
4. 論文発表会での発表と質疑応答が論理的かつ明確なものであり、総合的な考察能力が示されること。

総合学術研究科(博士後期課程)

博士学位論文の審査においては、ディプロマポリシーに基づき、以下の要件について総合的に評価する。

1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果であること。
2. 新規性や独創性があり、当該分野の学問の発展や社会的要請に貢献するものであること。
3. 先行研究の調査や評価が適切であり、当該研究の位置づけが明確であること。
4. 研究方法が適切であり、明確かつ具体的に記述されていること。
5. 研究目的、方法、結果、考察の展開が論理的であり、結論が明確に示されていること。
6. 引用等が適切になされ、公開する発表論文としての体裁が整っていること。
7. 公聴会での発表と質疑応答が論理的かつ的確に行われるとともに、当該分野の専門知識及び領域横断的な考察能力が示されること。